

研究名称:地域の記憶プロジェクト

研究内容:

本プロジェクトは、過去の写真や住民の証言、新聞記事などの記憶資源を収集・保存し、それらをまちづくりの資源としてまちのブランドづくりや地域教育などの場面で活用するためのモデル構築に取り組んでいます。現在は福岡市城南区別府校区、三池エリア(熊本県荒尾市・大牟田市)、宗像市日の里地区の3カ所で、地域住民や行政機関と連携をしながら展開しています。

① 福岡市城南区別府校区

公民館が校区の記憶の集積地としての役割を担っていくための仕組みづくりをおこなっています。地域住民とともに住民の証言や写真を収集し、記念誌の作成や記憶展を開催しました。収集した写真等はデジタル化をおこない、地域住民が今後自由に活用できるようにアーカイブ化して公民館に蓄積しています。

② 三池エリア(熊本県荒尾市・大牟田市)

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産を擁する三池炭鉱に関する記憶資源の収集保存に取り組みました。写真資料として、戦後から現代までの三池炭鉱での労働と生活に関する写真(現像写真572点、ネガフィルム約6,000コマ)のデジタル化と目録を作成しました。また、三池炭鉱の元従業員とその家族の方への聞き取り調査をおこない、延べ78名分の証言を蓄積しています。現在はこれらの資源を郷土学習やまちづくりの素材として活用していくためのモデルづくりとともに、世界遺産である万田坑(荒尾市所在)を活用したまちづくりの実践モデルの提案をおこなっています。

③ 宗像市日の里地区

別府校区での実践モデルを導入し、地域住民とともにプロジェクトチームを結成し、写真および住民の証言の収集に取り組んでいます。地域のコミュニティセンターに保存されていた日の里地区の写真および資料等の収集・保存に取り組み、企画展等で地域住民に公開をおこないました。小中学校や地域の自治協議会等とも連携し、日の里地区の世代間交流や学習の素材としての活用もすすんでおり、記憶を素材とした人材育成やまちづくりのモデルとして成果をあげています。

研究名称:防災における人材育成事業

研究内容:

本研究所では、「防災教育」を一つの柱として設定し、地域防災力の向上のための調査研究や教育実践活動に取り組んでいます。本学での防災士養成プログラムを開発し、学生や地域住民の方を対象に講座を実施しています。

また、近年多発する災害を通して、防災や災害復興の場での男女共同参画の視点の重要性を取り上げ、福岡市内のNPOと連携し、男女共同参画の視点に配慮した避難所運営についての啓発DVDを作成しました。その後NPOとともに、地域における女性防災リーダーの育成を目的とした研修プログラムを開発しました。このプログラムは福岡県の委託事業として、2017~2019年度にかけて県内の4地区8市町で開催しました。

両事業を通し、平時から防災意識をもち、災害時に対応することができる人材の育成に取り組んでいます。